



ビオトープ改修工事

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

多くの中地区の皆様のご協力を得て、そして多くの皆様にほたるの光で感激を与えた「ほたるのビオトープ」も平成13年7月に完成してから12年が過ぎ、ビオトープもあちらこちらで傷みが目立ち始めました。一つ目は水路沿いに打ち込んだ松の丸太が腐ってきました。二つ目はネットの梁の木も腐ってきてぐらぐらしてきました。そこで今年から修復工事を始めることにしました。

まず、一番大切な水路から手を付けました。施設班を中心に飼育班などの方々の多くの意見を聞きながら決定しました。10月12日、丸太の内側にコンクリート板を杭打ちし、川底にコンクリートを薄く敷きました。この作業に30名の参加を得て、午前8時30分から午後3時まで汗を流しました。10月19日水路に小砂利を敷き詰めて、所々に大きな石を置きました。作業終了後水を流し流れがスムーズになるように砂利の入れ替えをして完了しました。この作業中、平成13年に自治会、学校、中公民館、PTAなどボランティアの多くの皆様の協力を得て毎週土曜日4回続けて60名を越す参加者が泥だらけになって汗を流し素晴らしいビオトープが完成したことが思い出されました。今回の作業で今後10年以上は、多くのほたるが飛び交う水路になったと思います。

今後も「児童の夢・中地区の夢」である巴波川へほたるを蘇らせる活動を続けていきますので皆様のご協力をお願いします。

続けるということ

中小学校長 谷田部二三子

6月7日(金)・8日(土)に「ほたるを観る会」が開催されました。7日の式典では、ほたるを巴波川に戻す取組や「田んぼの学校」が始まった頃に在籍していた卒業生に発表していただきました。

8月10日(土)には、小山市立文化センターで行われた「アジア環境創造型稲作技術会議」の中で、6年生が、本校の12年間にわたるほたと田んぼの取組について発表しました。今後は、11月2日(土)のえのき祭と、12月6日(金)に渡良瀬遊水地会館にて行われる「渡良瀬遊水地学習研究発表会」において発表する予定です。

ほたと環境との関係を学ぶことを通して、巴波川の、中地区の環境を守っていこうという思いが子どもたちの心に育まれ、それが脈々と受け継がれています。中小学校で育った子どもたちは、「ふるさと中」を愛し、環境を大切にすることに成長することでしょう。長年続けてこられたことの貴さを感じます。それも、この取組を支えて来てくださったボランティアの皆様のおかげです。本当にありがとうございます。そして、これからもよろしくお願いします。

ほたるの活動世界に発信

—アジア環境創造型稲作技術会議 2013—

アジア環境創造型稲作技術会議 2013 が8月9日～11日の間小山市において開催されました。最終日の11日、小山市の文化センターで、中小学校のほたるの活動について6年生が研究発表しました。内容は、中地区の紹介から始まり、長年にわたり巴波川にホタルをもどそうと取り組んできたことをプロジェクターをとおして紹介しました。全国から集まった農業関係の方々やアジアから来日してきた会場いっぱいの人々の前で堂々と研究の成果を発表しました。外国の人は同時通訳の機器を耳に着けて発表を聞き、会場の人から多くの拍手を頂きました。



～ 発表する中小の6年生たち ～

ほたるを観る会



今年の『ほたるを観る会』は6月7日(金)～8日(土)に開催し、地区内の人から近郷の人たちもお出でになって盛大に行われました。出店やイベント行事にも大勢の人が集まりました。今年は創設の頃小学生だった3人の先輩から当時の思い出やこの会に対する想いについて発表してもらいました。10数年継続して来た「ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会」のあゆみを思い起こす発表でした。

～ 子どもたちの感想 ～

来年も飛んでほしい

3年

わたしは、ほたるを観る会に行きました。友達とほたるを見たり、いろいろなものを食べたりして、すごく楽しかったです。来年のほたるを観る会が楽しみです。来年もほたるがたくさん飛んでほしいです。

来年も飛べよほたるたち

4年

ほたるを観る会の日、蛍がたくさん飛んでいました。ほたるの籠作りや折り紙コーナーがありました。ぼくは、ほたるクイズをしました。ほたるクイズをしてわかったことは、「ほたるは成虫以外でも光る」ということです。これからの研究にかいたいです。

来年も飛べよ、ほたるたち。

ビオトープ改修工事

～ みんなの協力で作業 ～

平成13年に「ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会」が発足し、役員とPTAさん達が造成したビオトープは、長い間「ほたるを観る会」で地区の方々に鑑賞の場を提供してきました。

側溝に水漏れ防止のため隙間なく並べた松の丸太が朽ちてきたので、自治会長・ほたるの会役員・学校の先生・PTAさん達大勢の方々により、10月12日(土)と19日(土)の2回にわたり、改修工事が早朝から行われました。



－ 工事の様子 －



－ 工事完成後のビオトープ －

第1日、作業しやすくするために除草から始まり、川底の石を上げます。その後川底の整地作業です。兩岸の延べ80メートルに及ぶ側溝にコンクリート板を並べ、杭で固定しました。その後川底にコンクリートを張りました。

第2日、川底に砂利石を敷き、20～30センチほどの自然石を並べて、ビオトープに水を流しました。流れは順調で、次回の放流式に間に合いました。

小暮施設班長さんの指示のもと、手際よく大工事が進められてビオトープがリニューアルされました。これでビオトープ内に、幼虫の天敵ザリガニの侵入を防ぐことができます。

自然の恵み98Kg

今年は異常高温などの天候不順が続き稲作状況は不作の年とされています。そんな自然環境のもと中小学校の米は昨年より減収となり玄米で98キログラムでした。田植えから稲刈り脱穀とボランティアさんのご協力をいただきました。脱穀の時は雨除けのテントを張って収穫しました。お米はえのき祭で児童たちが握ったおにぎりとなってボランティアさんにふるまわれます。

たのしいねかり

1年

ぼくはいねかりをしました。6ねんせいのおねえさんといっしょにやるととても楽しかったです。らいねんのあきにまたいねかりをしたいです。



えのきさいで

2年

5年生のあきらくんといっしょに、いねかりをしました。えのきさいではお米をおにぎりにして食べるので楽しみです。はやくえのきさいになってほしいです。

初めての稲刈り

5年

私は初めての稲刈りをしました。根元がかたくてうまく刈れませんでしたが、「今年は、今までよりも米のとれる量が少ない」と増田さんが言っていました。それでもたくさん取れました。田んぼの中にはカエルや虫がいました。少しいやなきもちでしたが、たくさんよってくるのは、お米がおいしいのかもしてません。



－ 雨除けのテントで脱穀 －

小学生最後の稲刈り

6年

ぼくは、小学校最後の稲刈りをしました。お米がたくさん取れるといいなあと思っていたけど、説明を聞いて今年はずっとより取れる量が少ないことがわかりました。確かに稲を刈っていて、米の粒が小さいなと思いました。でも、1年生と一緒に楽しく稲刈りができてよい思い出になりました。

えのき祭でおいしいおにぎりを食べるのが楽しみです。

中小の「えのき」倒れる

樹齢120年とも言われ、中小学校の児童を見守り、数多くの卒業生を見送ってくれた中小のシンボル「えのき」が、台風26号のため倒されました。思い出の多い樹木を失って寂しく思います。

中小学校では、10月23日に感謝をこめて「お別れの会」を実施し、地域の方々も大勢参加していただきました。尚、11月2日に2代目のえのきを植樹する予定です。

一口メモ：ほたるの不思議

源氏ほたるの発光周期はオスとメスでは全く異なります。また、何のために光るのかといえば子孫を残すためです。ほたるはひかることによりお嫁さんを探しているのです。きちんとしたルールがあります。発光周期です。東日本では4秒、中部地方は3・5秒、西日本では2秒です。この間隔でオスは一斉に飛び光を点滅します。メスは葉の陰か地面で光ります。眼下に飛んでいないほたるの光を見つければメスと分かり、子孫を残す行為ができるのです。

＝編集後記＝

中小の広報紙編集は、ボランティアさん達の活動の様子を皆さんに伝えるために力を合わせ頑張っています。

これからも「うずまのほたる」宜しくお願いします。

－うずまのほたる－ 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・荒井 淑恵・前田 秋子・松沼 由美
中見川洋子・立石麻紀子・田澤 均・島田 則子